

プロとしての介護業務について——その2

先月はプロの介護業務と身内の介護は別物で基本の心構えが違うということをお話し致しました。今回は入所介護施設の社会における位置付けについてお話致します。

入所介護施設や介護の形態には様々なものがありますが、私たちは老健施設です。その社会的使命も法令上で決められております。「居宅復帰と居宅支援」です。似たようなこの2つの言葉は入所機能のみでなく通所リハビリ機能・訪問リハビリ機能も含みます。入所機能についても人生の永久の生活機能施設と居宅への復帰機能施設とに分かれますが、法令上の入所施設類型3つ（特養・介護医療院・老健）のうち、私たち老健は後者に当たります。特養と介護医療院はとわの生活施設に当たります。医療の有無の視点からは介護医療院と老健が医療も介護も行う施設になります。病院や医院や有料ホーム等居宅施設との間の橋渡しの中間施設とも言えます。

このような社会的な役割（＝使命）、これは見方を変えれば老健入所自体が生活リハビリ機能の役割を果たすということになります。その社会的使命を具現化すべく全国老健協会もその理念（＝家訓のようなもの）を決めていて、さらにその理念を共有しながら私達個々の老健も個々の理念を決めて社会的使命の具現化のために日々行動しております。私たちの老健一羊館も下記の理念と行動指針等のもとに活動しております。

単なる援助介護ではなく、障害なりの程度に応じたそれなりの居宅生活ができることを目指して自分でできることはなるべく自分でして頂きそれとなく優しく見守り支援すること、とも言えます。

私達の施設は多職種協働を合言葉に日々努力を重ねています。是非やりがいのある施設に成りますようご協力ください。そしてそのためにもより良い介護を目指して日々の小さな工夫を忘れず前向きに取り組みましょう。

なお、普段から“頑張れば報われる”を實踐したいとは思っていながら結構難しいのが実情です。しかし今回は実現できそうです。来たる4月からは超強化型施設に成れそうです。その節は実績を見てからですが皆様のお手当にも反映できるようにしたいと考えておりますので楽しみにして下さい。

自己主張は控えめに自分で気づかないことはお互いに遠慮なく指摘し合って、プロの介護を目指しましょう。

老人保健施設一羊館の理念
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。